

TMDU 海外留学 先輩の声

留学/派遣先（国名）：オーストラリア国立大学（オーストラリア）



Q. 今回の留学 プログラムの感想

オーストラリア国立大学の教育病院であるキャンベラ病院で、皮膚科と消化器内科それぞれ4週間の臨床実習に参加しました。オーストラリア医療の実際を目の当たりにし、多種多様な症例から学びを得るとともに、オーストラリアの医療制度や医師の働き方についての知見を広げることができました。様々な出身の学生さんと観光や天体観測に出かけ、親交を深めることもできました。キャンベラは首都にもかかわらず自然豊かな落ち着いた都市で、のびのびと過ごすことができる環境でした。

Q. 健康管理や 危機管理について

私自身は今回、特に健康上の問題はありませんでしたが、院内でインフルエンザやコロナが流行していたようでした。途中からマスクの着用が呼びかけられ、手洗いなどと合わせて基本的な感染対策を徹底すべきだと思いました。

Q. 今回の派遣先への 留学を希望している 後輩たちへの メッセージ

多文化主義で移民が多いオーストラリアでは、人種による疫学の違いを学ぶことができる上、個々の違いを受け入れる寛容な風土からフレンドリーな方が多く、多様な背景を持つ人々と交流することができるため、海外臨床留学におすすめです。先生から日本における疫学や治療法などについて質問されることが多かったため、留学前には日本の現状について理解を深めておくことも重要だと感じました。

Q. 留学プログラムへの 応募前や選考、 渡航前など大変や 不安だったこと

犯罪経歴証明書や保険加入、ワクチンの追加接種といった渡航前準備が大変でした。また自分で探した滞在先だったため、住環境や病院への通学が実際どのようなか分からず不安でした。

留学中のお気に入りの写真



コメント： 実習後に病院で見た夕焼け

ご協力ありがとうございました！ 今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：オーストラリア国立大学(オーストラリア)

Q. 今回の留学 プログラムの感想

今回の留学の一番の収穫は自分の通用する能力、足りない能力を明確にできたことです。将来海外で臨床を行うかどうかは明確に決まっていなかったのですが、その際に何を準備しておくといけないか、具体的なイメージを持つことができたので、海外で臨床を行うという選択肢をより現実的なものとして持つことができたように感じました。日本とオーストラリアで大きく医療面に差があるとは思っていませんでしたが、患者と医師の関係性は日本よりもフラットで、先生方は比較的ゆったりとした働き方をしているという印象でした。このように日本の医療を異なる視点から見ることは、貴重な経験でした。

Q. 健康管理や 危機管理について

キャンベラは治安がいいという印象でしたが、貴重品の管理などは気を付けていました。健康面では人生初の一人暮らしだったので、生活リズムを整えることを意識していましたが、結果的にインフルエンザにかかってしまいました。

Q. 今回の派遣先への 留学を希望している 後輩たちへの メッセージ

派遣先によらず、新しい環境で実習を行うのは簡単なことではないですし、言語面で日本の実習より理解度が落ちる場面があると思います。そのような環境でも、自分に矢印を向けて、勉強する、努力することは良い経験になると感じました。オーストラリアは病院内で様々なルーツを持つ先生や学生がいて、アジア系の人も多く、日本人としてアウェイ感を感じることはありませんでした。全体的なおおらかな雰囲気の人が多いというのがオーストラリアの良さだと思います。キャンベラは首都でありながらも、小さな都市で、都会の喧騒から離れた人にとってはうってつけの実習先だと思います。

Q. 留学プログラムへの 応募前や選考、 渡航前などに大変や 不安だったこと

派遣前にTOEFL100以上を求められ、応募した時点では90程度でした。準備をすれば、渡航までに基準のスコアを満たすのは可能だと思っていましたが、試験直前はさすがにプレッシャーを感じました。また、今までに留学経験はなかったので、基準を満たしていてもネイティブスピードの会話に対応できるかは一抹の不安がありました。

留学中のお気に入りの写真



コメント：キャンベラを一望できる展望台です。オーストラリアに来たと実感できます。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：オーストラリア国立大学（オーストラリア）

Q.今回の留学プログラムの感想	ANUでの実習を通して学んだこと大きく2つあります。一つ目は、日本の実習では学ぶことのない、より実践的なスキルが身についたことです。現地では、学生が採血やルート確保を行うことが期待されており、医学生に教わりながらこれらの手技を習得しました。また、実習の合間に医学部の授業やワークショップに参加する機会もあり、助産師から産科の手技を学ぶことなどができました。二つ目は、「自ら考えて動く」習慣が身についたことです。ANUでの実習内容には特に決まりはなく、つきたいチームにつき、見たいものを見ることが許されました。そのため、自分で目標を設定し積極的に行動しなければ、何も得られないという焦りもありました。「今どこで何をしたら最大限の学びを得られるか」を常に考えて行動する習慣が身につき、今後の実習やキャリアでも役に立つ経験をすることができました。	留学中のお気に入りの写真  コメント：キャンベラで最も綺麗な夜景スポットとされる、Mount Ainslieを登ったとき
Q.健康管理や危機管理について	留学する4,5月はオーストラリアの秋～冬に相当し、季節の変わり目のため、周りで体調を崩す人が多くいました。日本から風邪薬や体温計などを持参することをお勧めします。治安や安全面で困ることはありませんでしたが、基本的に車社会で人通りが少ないため、夜遅くに一人で出歩くことは避けましょう(特に女子)。	
Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	オーストラリアは移民大国なので、世界中の国から来た医学生と友達になれます！人種差別はほとんどなく、優しく穏やかな国民性なので、安心して臨んでください。2ヶ月という短い期間ですが、医学生のイベントも多く、さまざまなバックグラウンドの人と出会える刺激的な経験になると思います。ぜひ楽しんでください！	
Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前など大変や不安だったこと	ANUの寮に入ることが認められず、滞在先探しに苦労した末、医科歯科生2人でAirbnbに住みました。キャンベラ病院はキャンベラ中心地から少し離れた場所にありますが、利便性やQOLなどの観点から、住むのは中心地(Braddonなど)がおすすめです！	

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：オーストラリア国立大学

Q.今回の留学
プログラムの感想

英語を使って臨床をする、という目標を達成することができました。慣れない環境・言語で、医学を実践することは容易ではありませんでしたが、留学前の準備（FOCUS）や留学先の先生方のご指導のおかげで、貴重な経験を積むことができました。

Q.健康管理や
危機管理について

キャンベラの治安が良いため、問題なく過ごすことができました。

Q.今回の派遣先への
留学を希望している
後輩たちへの
メッセージ

日本とは異なる医療制度や労働環境を実際に経験することで、詳細のキャリア形成の大きな刺激になると思います。ぜひ留学を考えている場合はチャレンジしてみてください。

Q.留学プログラムへの
応募前や選考、
渡航前などに大変や
不安だったこと

昨年度同じ留学先に派遣されていた先輩方と事前に交流があったおかげで、効果的に留学準備をすることができたため、懸念点などを最小限に抑えることができました。

留学中のお気に入りの写真



ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：南カリフォルニア大学(Keck Hospital of USC)(アメリカ)

Q.今回の留学プログラムの感想

アメリカの現地学生に混ざって実習を受けられる機会は非常に貴重であった。特に、外科系は体力面でも鍛えられた。上級医からの指示を受けて動くのではなく、自分で何をすべきか考え、率先して動く大切さ、また他の学生や医師とコミュニケーションをとる大切さを学んだ。アメリカの実習では、学生もグループの一員として仕事に参加するため、日本に比べ責任感も大きかった。自分の知識をアウトプットする機会も多く、積極的に実習に参加できたと思う。ロサンゼルスはアメリカ人だけでなく、アジア系、ヒスパニックなど様々な人種があり、日本にはない文化の違いや多様性を間近で感じることができた。

Q.健康管理や危機管理について

健康管理には非常に気を使っていたため、風邪をひかず過ごすことができた。治安が悪いと聞いていたので、地下鉄には乗らないようにした。Lyftにスマホを忘れてしまったのが大きな失敗であるが、すぐに回収することができたのでよかった。また、日本の携帯電話番号が使えず苦労した場面があったので、アメリカで利用できる携帯電話番号(できればSMS付きのもの)を用意しておくべきであった。

Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ

ロサンゼルスは多様な人種がいるので、様々なバックグラウンドを持つ患者さんと出会うことができるのが最大の特徴であると思います。(アジア人差別ありませんでした)アメリカの医療の現状を知り、日本との医療制度を学ぶには絶好の機会であると思います。自分の将来のキャリアを学ぶ上でも、この経験は役立つと思うので、ぜひチャレンジしてみてもらいたいです。

Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと

初めての留学であり、何もかもが不安であった。特に、治安についてはとても心配していた。英語力に関しては、スピーキングに自信がなかった。

留学中のお気に入りの写真



コメント：病院の前での写真です。立派な噴水がありました。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

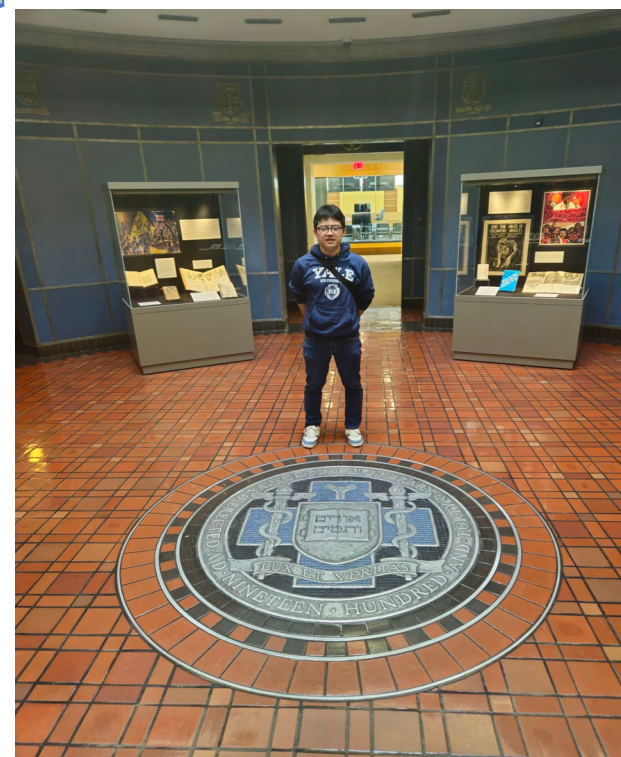
TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：イエール大学（アメリカ合衆国）

Q. 今回の留学プログラムの感想	イエール大学のIVRでの臨床実習では、血管内治療や腫瘍治療などの高度な技術を間近で見ることができ、日々の研修は非常に充実していました。また、毎朝カンファレンスが行われ、ディスカッションを通じて深い知識を得ることができました。印象に残ったことの一つは、医療チームメンバーが医学的知識を同等のレベルで共有していたことです。医師、看護師、技師など、さまざまな専門職が連携しながら同じゴールに向かって最適な治療を提供している形は非常に印象的でした。自身の変化としては専門的な医療用語やカンファレンスでのディスカッションを通じて、自信を持って英語での発言ができるようになりました。また、臨床の現場での迅速な判断力や対応力も向上しました。アメリカの文化や生活習慣に触れることで、自分自身の価値観や考え方にも影響を受けました。特に、自由でオープンなコミュニケーションスタイルや、residentがattendingに対して意見する文化は非常に新鮮でした。
Q. 健康管理や危機管理について	健康・危機管理でヒヤットすることは基本的にありませんでした。都心部に多いとされる浮浪者や薬物中毒者はほとんど見られず治安は極めて良好だと思いました。ただ夜暗くなってから外をであることは基本的にありませんでした。
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	どこの大学に行った場合もそうですが自分から積極的に質問をしたり、カンファレンスで意見を述べたりすることが非常に重要です。遠慮せずに、どんどん学びたいことを探求してください。そのためには英語でのコミュニケーションは必須です。医療用語や専門的なディスカッションを理解し、自分の意見を英語で表現する力を事前に鍛えておくと、現地での学びが格段に深まります。また、日常会話も大切なので、普段から英語に触れる機会を増やしましょう。
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前など大変や不安だったこと	医科歯科と提携していない大学への留学だったので、応募がうまくいかなど漠然とした不安は多くあったが、イエール大学は他大学からの学生の受け入れに慣れていて、連絡も非常にスムーズでこちらが何をしなければいけないのか非常に明確であった。

留学中のお気に入りの写真



コメント：イエール大学医学部図書館中央ホールでの写真

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声

留学/派遣先（国名）：Vanderbilt大学（アメリカ）



Q. 今回の留学 プログラムの感想

初めは慣れない環境への適応で精一杯でした。言語、文化、実習様式すべてが医科歯科とは異なる中、身一つで挑戦するという経験は精神面の成長にとてもつながつたと思います。

現地の医師はもちろんですが、特に医学生には強く刺激を受けました。彼らの医学に対する真摯な思いや勤勉さは想像以上です。手慣れた手つきで手技を実践していたり、自分の知らないような内科的な知識を当然のように持ち合わせながら上級医と相談していたり、と非常にレベルの高い集団の中で医学に集中できました。

日本が恋しく思う瞬間もありましたが、それと同等以上にアメリカという国の大きさを全身に受けながら充実した一か月を過ごせたと思います。

Q. 健康管理や 危機管理について

健康管理の難易度はやはり日本よりも高いと感じました。特に外食では一食分以上の量が提供されることがほとんどなので、お店の人に頼んで家に持ち帰ったり、自炊したりなどしてコントロールしていました。発熱等に関してはCVSをはじめとしたスーパーなどでTylenolがたくさん売られているのでその点は安心でした。

Q. 今回の派遣先への 留学を希望している 後輩たちへの メッセージ

アメリカはフレンドリーな方々が多く、とても楽しく医学を学ぶことができます。語学や医学の準備はもちろん大切ですが、過度に肩ひじ張らず胸を張っていただければと思います。医科歯科との差異は何か、自分が学びたいことは何か、をすり合わせながら実習先を選ぶことが充実した留学を送るために大切だと思います。

Q. 留学プログラムへの 応募前や選考、 渡航前など大変や 不安だったこと

Tdap接種や査証関連など、海外留学ならではの関門は早め早めの準備が大切ですね。受け入れ大学とのやり取りは英語で行いますし、急遽追加で必要書類を求められることもあります。

現地の治安や物価、お店の位置など、マップだけではなかなか情報をまとめられず不安でした。

留学中のお気に入りの写真



コメント：こどもにも親しまれやすい、かわいいデザインですね(^ ▽ ^)

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声

留学/派遣先（国名）：南カリフォルニア大学(アメリカ)



Q.今回の留学 プログラムの感想	今まで海外での生活経験もなかったため、初めは怒涛のスピードの英語での専門的な会話に全くついていけずうろたえましたが、一か月の間に少しずつ慣れて、自分の患者さんのことは回診で先生の質問に多少答えられるくらいにはなり、自分の成長を実感できました。スペイン語しか話せない移民の患者さんが多かったり、病院内に医療刑務所があったりと、日本では経験することがないアメリカの社会的な背景を病院内でもしばしば感じたのが印象的でした。現地の学生も先生方も、自分の意見をはっきり伝え上下関係関係なく対等にディスカッションしながらお互い成長しようという考え方の人が多く、日本との国民性の違いを感じました。	留学中のお気に入りの写真  コメント：Los Angeles General Medical Center
Q.健康管理や 危機管理について	LAは朝昼の寒暖差が大きいので体調を崩しやすいです。また、ダウンタウンを中心として治安がいいとは言えない場所が多いので、事前に治安が悪い場所は調べておく、夜は出歩かないなど気を付けていました。車社会で歩道に人が多く、運転が荒い車も多いので横断歩道を渡るときは要注意です。地下鉄は治安最悪なので基本NG!	
Q.今回の派遣先への 留学を希望している 後輩たちへの メッセージ	FOCUSだったりワクチンだったり準備が大変なのは間違いないですが、行けばそれを上回る忘れられない貴重な経験ができるのも間違いないです。何より言語の違う知らない場所で1か月自力で生活したという経験は自分の自信にもつながると思います。少しでも海外の医療に興味がある、新しい世界を知りたい人にはぜひチャレンジしてほしいです。	
Q.留学プログラムへの 応募前や選考、 渡航前など大変や 不安だったこと	寮がなかったため、安全面や設備、利便性を考えて自分で家を探すのは大変でした。ワクチンも後から自分で受けに行かないといけないものもあり地味に時間と手間(とお金)がかかります。LAは治安が良くない、という話は聞いていたのですが、実際行ってみないと様子が分からず不安要素でした。	

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：Vanderbilt大学（アメリカ）

留学中のお気に入りの写真



コメント：気候は日本と似ていて、公園で桜が咲いていました！

Q. 今回の留学プログラムの感想

Vanderbilt大学Medical Centerの肝移植外科チームで1か月間、実習をしました。Vanderbilt大学の肝移植外科では、医学生がチームの一員として扱われていることが多く、患者さんに対して一人で問診や身体診察を行い、回診の時に発表するなど、様々な経験を積むことができました。さらに、研修医の先生と一緒に入院患者の処置を行う機会もあり、日本とは異なる環境で実習を行うことで、日本での実習を振り返る良い機会にもなりました。特に印象的だったのは、Vanderbilt大学の医学生や研修医の意識の高さで、彼らの姿勢に刺激を受け、これからの実習でも自ら学ぶ姿勢で、学習に努めたいと強く感じました。アメリカのレジデント(研修医)は本当にレジデント(住人)のようでした。

Q. 健康管理や危機管理について

大学の敷地内はかなり安全だと思います。日差しが思っていた以上に強く、通学で毎日歩いていたので、日焼けで腕と顔が赤くなってしまいました。

Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ

充実した実習ができると思います。また日本の実習での自分自身を見つめ直す機会にもなります。出発前からしっかりと準備をして、何をしたいのか、何を学習したいのか明確にして、それを向こうの先生方に伝え、より良い経験を積めるかと思います。

Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前など大変や不安だったこと

実習のための医学生用の保険を申し込む際に、派遣大学先から2つの保険会社を提示されたので、両方で見積もりをとり、安い方で申し込みをした。後になって、申し込んだ保険会社から医学生用の保険は扱っていないと連絡が来て、結局、キャンセルをして、もう一方で申し込みをする必要があったこと。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：Vanderbilt University (アメリカ合衆国)

Q. 今回の留学プログラムの感想	自分の医学知識や英語力に自信がなかったため、派遣前は異国での病院実習をどこまで意義のあるものに出来るかと不安ばかりでした。しかし、派遣先の先生方はとても親切で、わからないことがあれば丁寧に教えてくださりましたし、現地の医学生もとても友好的に接してくれたため、とても楽しく充実した実習を行うことが出来ました。先生方の熱心なご指導を受けるなかで、学生でもチームの一員として接し意見を求められることがモチベーションにつながりました。
Q. 健康管理や危機管理について	外出の際には貴重品は常に身につけておくことや、人混みの中では荷物を手で押さえることなど、盗難に関しては特に注意していました。どこにいるにしても日本より安全であることはないということを意識していました。
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	言語や文化の異なる環境に飛び込み、専門的なことを学ぶことは不安や困難をとまいません。しかし、それだけ学べることが多く、視野も広がります。海外で働くなど具体的な将来を決めていなくても、自分のキャリア形成において他には代えがたい貴重な経験となります。興味が少しでもあるならば、挑戦してみたいとおもいます。
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前など大変や不安だったこと	英語での会話に自信がなかったこと。保険の手続きに時間がかかったこと。

留学中のお気に入りの写真



コメント：Nashvilleはカントリーミュージックの聖地としても有名です。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

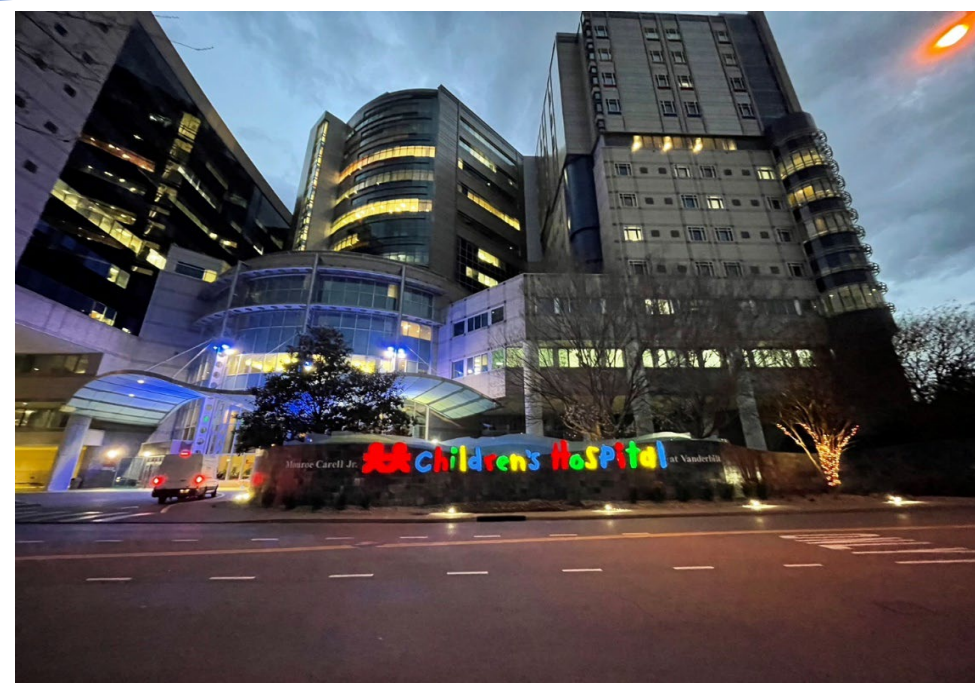
TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）： Vanderbilt大学（米国）

Q. 今回の留学プログラムの感想	四年次の留学と比較し、準備の段階からより主体的に行うことが出来たため、より実りの多いものとなった。特に移植件数の多い米国ならではの学習項目として、移植に必要な免疫学等の知識、移植後の免疫抑制剤や副作用の種類及びその管理などを、その道の第一人者のような高名な先生に教えていただいたことはかけがえのない経験となった。また移植前PDの件数が多く、日本では担当することがない症例を通して学習することが出来た。英語使用は母国語として使うレベルに到達できることはなく、それを踏まえたうえでより積極的に行動しなければいけないが、その点においてまだ成長が必要だと感じた。全体として、職員は学生や新人の教育に重点を置いており、日本より学習効果の高い環境であると感じた。
Q. 健康管理や危機管理について	滞在中に健康問題、危機管理等で問題はなかった。
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	生活環境はよく、人種差別もなく、勉学という目的に非常に適した場所です。小児科病棟が大きく、小児科を志す人にとって良い留学先であると思います。また私の留学先であった腎臓内科も移植件数が全米有数の大きな科であったため、日本とはまた違った学習の効果がありません。科目選択の幅が広いうえに、先生も教育熱心で、どの専門科でも興味のある分野を回ることが可能であれば非常に学びが多いと思います。残されたわずかな実習の期間のうち1-2か月を使うことになるため、やる気のある学生が興味のある分野で臨んでいただけるとよいと思います。
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	四年次の研究留学の際に言語の壁により思うように活動できなかった経験から、臨床実習での英語使用に不安があった。応募や選考においては、事前に詳細に周知されており、問題はなかった。

留学中のお気に入りの写真



コメント：アメリカの実習は朝が早いです！

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声

留学/派遣先（国名）：Vanderbilt University, Cornell Medicine,
Icahn School of Medicine at Mount Sinai（米国）



Q. 今回の留学プログラムの感想	3つの病院でのこの3か月は久しぶりに本当に大変な経験であった。日本では実習は主に受動的で見学に近いが、現地では研修医と同じ勤務時間で出席し、実際介入したり手技を行う機会だけである。1年生の頃から将来アメリカで外科医として働く目標を持っていた私にとって、今回の留学は現実を体感し、自分が本当にこの仕事に適正があるかどうかを確認する、チャレンジングな経験であったが、無事留学が終わった今、とにかくこの留学にいかせていただけたことに心から感謝している。大変な時こそ成長できるチャンスであり、今回は精神的にも肉体的にもかなり限界まで押されたが、周りの家族、友人、先生のおかげで何とか乗り越えることができた。これからの将来に向けて非常に糧となる経験であった。	留学中のお気に入りの写真 コメント：コーネル大学胸部外科教授 Altorki先生と（左）、Vanderbilt Surgical ICUチーム（右上）、3か月実習終わりのパーティー（2か月NYで一緒だったメンバーと）（右下）	
Q. 健康管理や危機管理について	プロセメと違い、臨床実習では体調管理が一層大事であった。留学初期から慢性咳嗽に悩まれ、その後は親知らずが炎症し、血種ができたため緊急抜歯が必要であった。OSSMAが対応してくださったが、やはり海外で体調を壊すのはとても怖い。体調管理第一であった。		
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	大変なことも多いですが食いしばってそれを乗り越えれば、自分でもびっくりするくらいの成長が控えています。単位を認めていただきこれだけ留学させていただけるのは本学の特色だと思うので、是非最大限に有効活用してください。あとせっかく留学で行っているのだから、友達を作ることも忘れないこと！日本で友達を作るよりもやや大変かもしれませんが、一生のかけがえのない友達となります。		
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	VSLOで受かった米国に学生が今までいなかったため、そこを一人でナビゲートするのが非常に大変であった。合格発表までもとにかくそわそわした。困っている後輩がいたら是非相談に乗ります！		

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：ヴァンダービルト大学 Vanderbilt Children`s Hospital (アメリカ)

Q.今回の留学 プログラムの感想

小児神経科で計4週間の臨床実習を行いました。そのうちの2週間は外来、1週間は小児神経病棟、更に1週間はPICU・NICUでの病棟実習というように、場所と内容は多岐にわたり、様々な症例に触れることができました。小児神経科のレジデントの先生方、上級医の先生方はとても親切で教育熱心でした。実習に関する内容や今後のキャリアについて、どんなに些細なことも気軽に相談したり、質問したりすることができました。1カ月間、少しずつでも知識や英語力が上達していくことを感じることができました。また、学生はレジデントの勉強会や様々な病院のイベントにも参加することができ、忘れられない思い出になりました。

Q.健康管理や 危機管理について

環境が変わったり、病院で様々な患者さんとお家族と接したりするため、感染対策を行いつつ、よく食べてよく寝ることを最優先に体調管理をしていました。大学と病院の周辺は、学生が多く、治安が良いと感じました。複数人で行動する、夜間の外出を控えるといった心掛けはしていました。

Q.今回の派遣先への 留学を希望している 後輩たちへの メッセージ

この1カ月間の臨床留学は、私の今後のモチベーションとキャリア選択に大きな影響を与えるものになりました。ここで出会ったヴァンダービルト大学の医学生、同時期に実習に参加した他国の留学生、レジデントと上級医の先生方は、皆とても優秀で魅力的な方ばかりでした。彼らに出会うためにもぜひ臨床留学の一步を踏み出していただきたいです。実習中は、手を動かして実践することが多く、知識も手技もたくさん身につけられる1カ月間になります。実習前は学内での事前準備、実習中は先生方の親身なサポートがありますので、恐れずに挑戦できる環境が整えられていると思います。

Q.留学プログラムへの 応募前や選考、 渡航前など大変や 不安だったこと

選考のためにTOEFLを受けたり、パスポート更新やビザ申請を進めたり、各種保険やワクチン接種の証明書を準備したりすることが大変でした。一緒に留学に行く同級生たちと協力しながら、準備をしていました。

留学中のお気に入りの写真



コメント：Nashvilleはカントリーミュージックが有名な街です。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同

TMDU 海外留学 先輩の声

留学/派遣先（国名）： ロンドン大学セントジョージ校（イギリス）



Q. 今回の留学 プログラムの感想

300年近い歴史を持ち、イギリス国内でも最大規模の教育病院であるSt. George's Hospitalで、4週間の小児科臨床実習に参加しました。イギリス医療の実際を目の当たりにし、日本ではなかなか目にするものない多種多様な症例から学びを得るとともに、イギリスの医療制度や医師の働き方について知見を広げることができました。また、同じプログラムに参加している日本の他大学や世界の医学生と交友を深め、お互いの経験や知識を共有するのみならず、放課後や休日は見どころが豊富なロンドンで一緒に楽しい時間を過ごすこともできました。

Q. 健康管理や 危機管理について

最寄り駅周辺はそれほど治安が良くないため、夜間に一人で外出することは避けました。地下鉄や人混みでは常にスリに注意する必要があります。

Q. 今回の派遣先への 留学を希望している 後輩たちへの メッセージ

ロンドンには多くの移民によって成り立つ国際都市であるため、多様な背景を持つ患者・医療スタッフ・学生との交流や、人種差・地域差のある症例との出会いという点で海外臨床留学におすすめです。実習は予めスケジュールが決められている訳ではなく、留学中にどのような経験を得られるのかは自分の意欲次第とも言えます。経験したいことや目標を決め、それを現地で意思表示することで、より充実した留学生活を送ることができると思います。

Q. 留学プログラムへの 応募前や選考、 渡航前などに大変や 不安だったこと

医学教育振興財団を通じたプログラムであるため、学内選考の後に財団の選考を受ける必要があり、面接試験が大変緊張しました。また、ロンドン大学セントジョージ校へはCOVID-19収束後初めての派遣であり、渡航前準備が先輩とは異なる点が多く不安でした。

留学中のお気に入りの写真



コメント：寮にやってきたセラピードッグ。プロの仕事は実習の疲れに効果てきめんです。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際交流課 学生派遣係 一同